

● 7月13日(火) 快晴 大千軒岳 松前・温泉旅館矢野泊

・昨夜半久しぶりで星空を見た。大千軒岳へ登れる興奮と、昨日狩場山で蝸に食われた足の痒みであまり眠れず寝不足気味だ。

5時起床、昨夜は星空だったのに、今朝はうっすらと雲がかかっている。

・いつもの通りサンドイッチと牛乳で朝食を済ませ、6時25分に出発した。228号線を少し西に走り左折して林道に入る。昨日道路状況を訪ねに行った「森林現業所」が管理する取っ付きの10kmは舗装されていて快適に走った。舗装が切れたところにゲートがあり、「入林帳」が置いてあった。ここからが「森のくらし」が管理するダートの林道の始まりで、登山口まで延々30km以上続く。



朝を迎えた道の駅「北前船松前」

・入林帳に記入して未舗装の林道に突っ込んだ。走ってみると恐れていたほど道は荒れていない、夕張林道や天塩林道の方がよっぽどダートだ。この山に入る人が比較的少ないためだろう。



旧道登山口



新道登山口



新道登山口の広場(駐車場)

・旧道登山口を通過し新道登山口に7時半を過ぎてやっと到着、1時間以上もダートを走っていきさか疲れた。登山口は広場になっていて壊れかけたトイレ小屋がある。当然だれも来ていない、私の車だけだ。

・山はまだ朝の霧の中にすっぽりと包まれていて視界は殆ど無い。7時50分に登山開始。朝霧がかかっているのに急いでも仕方がない、そのうち霧が晴れるだろうと、熊除けの鈴を鳴らしながら、道端に咲いている花々の写真を撮りながらのんびりと登った。ギンリョウソウの変種のような変な花を見つけた。実はギンリョウソウの実であることが後で調べてわかった。



ギンリョウソウの実



尾根筋に出たら霧が晴れていた

・山頂近く尾根筋に出たら予想通り霧が晴れてきた。昨日までの雨上がりだけあって空は見事に澄み、津軽半島の山々が良く見える。

とどうだろうその奥に岩木山がその尖った山容で聳えているのが見える。なんという絶景！



岩木山が遠くに見えた



9時半に山頂に立った。

← 山頂は一等三角点

・今日も山頂には私一人、展望を独り占めだ。

山頂から千軒平が見おろせそこまで広い草原が広がっている。千軒平は旧道登山口への道と知内コース登山口との分岐点である。千軒平まで行ってみることにした。

・山頂から急斜面を下るが深い笹で覆われて足元が見えず、危なくてなかなかペースが上がらない。千軒清水の脇を通って平坦な草原に出るとそこはいろいろな花が咲いているお花畑だ。エゾゼンテイカやハクサンシャジン、トウゲブキ、タカネナデシコ、シュロソウ、エゾシオガマ、オトギリソウなど嬉しくなるような花一杯の高原の中を歩いて千軒平に着いた。千軒平には江戸時代に金鉱で働いていたキリスト教信者がキリスト教弾圧で処刑された歴史を伝える十字架が寂しげに立っている。



千軒平はお花畑



千軒平の十字架を通して大千軒岳を見る



知内コース分岐

・十字架を通して今来た道を辿り大千軒岳を見上げると言い知れない感慨を覚えた。千軒平でしばらく休んで、来た道を引き返し再び大千軒岳の山頂に立った。岩木山をはじめ素晴らしい展望を目に焼き付けて下山を始めた。こんなに素晴らしい山にだれもいない、独り占めできたとはなんと贅沢なことだろう。

・オトギリソウやエゾゼンテイカ、エゾシオガマなどが咲く尾根道をルンルン気分で行き 11 時半に駐車場に着いた。

・下りの途中で昨日道路状況を教えてもらった「森づくり」のメンバー4, 5人のパーティーと

出合った。旧道からのパーティーと2班に分かれて登山道の調査をしているらしい。「岩木山が見えるなんてことはめったにない」と驚いていた。駐車場にはわたしの車と先ほどのメンバーの公用車2台が止まっていた。結局今日大千軒岳へ登った登山者は私一人だけだったと言うわけだ。もったいないことだ。朝来たダートの林道をまた1時間以上走って松前の町に戻った。



岩木山の姿を目に焼き付けて下山した



### 松前は快晴だった

・松前は雲一つない快晴で真夏の太陽が容赦なく照り付けて、日なたにはとても居られない。今日の大千軒岳で今年予定の山紀行は大成功の終了だ。

終了を祝って今日は松前の旅館に泊ることにした。道の駅に案内があった温泉旅館「矢野」に電話するとOK。これがまた良い旅館で、風呂も女将も飯も良かった。2時過ぎに入って、まず洗濯。旅館の洗濯機を使わせてくれた。風呂は大きな湯船の温泉で一人でゆっくり入浴。夕食まで部屋でパソコンを開いて今日の写真の整理と今までの諸々の整理と、これからの計画を考えた。

・6時から食堂で夕食、和室のテーブル席を衝立で仕切り半個室。他に3組ほど居たようだ。

豪華な食事に生ビール、冷酒。若女将がやってきて

今日の大千軒岳の話や松前船の話などで楽しい夕食の時を過ごした。

・何しろ狩場山で蝨に刺された足が痒くて我慢できない。1250円も出して江差で買ってきた痒み止めをいくら塗っても全く効かない。ポリポリ掻きながらこの日記を書いている。そろそろ寝るか。明日はゆっくりして函館方面へ行こう。帰路のフェリーまでまだ1週間もある。これからどうしようか。北海道にいたほうが涼しくていいし……。などと思いながら眠りについた。



### 夕食のご馳走

● 7月14日(水) 曇 移動 道の駅「なとわえさん」泊

・朝4時前に目が覚めた。今日はゆっくりでいいのに、習慣とは恐ろしい。地図を見たり山の本を見たりして時間をつぶし、6時から入れる風呂へ。朝食は7時から。昨日の夕食も良かったが今朝の朝食もGood! 上品で美味しいし、器が素晴らしい。

・昨日の快晴とは打って変わって今日はどんよりと曇っている。昨日登っておいて良かった。昨日若女将が「岩木山が見えると必ず天気が悪くなる」と言っていた。まさにその通り。天気予報によると低気圧の通過が最大のポイントで、道北は晴れるが道南は雨だとのこと。朝食が済んだ8時前頃からポツポツ始まった。今年の山紀行の終わりを待っていたように天気が崩れた。

・旅館でゆっくりしてから松前を後に228号線を西に向かって出かけた。

・まず寄ったのが隣町の福島町。ここは千代の山、千代の富士を輩出した相撲の町で、「千代の山、千代の富士記念館」なる立派な箱物が建っている。入館料700円を払って入ってみた。今や野球賭博騒ぎで大相撲の人気もさっぱり、入館者も殆どいない。千代の山、千代の富士を良く知っている私にとってはなかなか面白い記念館だったが、最近は外国人力士ばかりで北海道から力士が出てい



福島町の博物館2つ「横綱千代の山・千代の富士記念館」と「青函トンネル記念館」

ない、寂しいかぎりですねと、受付のお姉さんと嘆きあったりした。ここ福島町は青函トンネル掘削時の北海道側の拠点で、大勢の工事関係者が集まり大きな町になり賑わった。しかしトンネルが完成するとトンネルの出口は隣町の知内で、工事関係者はみんな引き上げて行ってしまい、どんどん寂れてしまった。町全体がひっそりとして昔の賑わいの面影はない。すぐそばに建てられている「青函トンネル記念館」で、当時工事で湧いたよき時代を寂しく見せてもらった。

・知内を通り函館へ入った。函館は晴天、夏の太陽が照り付けていた。久しぶりで都会の中を走った。ダイソーによって書類ケースを買って、もう旅も終わるといのに、車内の書類を整理するようにケースを取り付け車内改造した。

・天気がいいので久しぶりで函館山に登った。  
(当然車で) やあ! 良く見える。眼下に函館湾と函館市街、遠くには函館空港が見える。北の方は雲があって山並みが見えないが、東方に遠く見える山は恵山だろうか、西を見ると遠く雲の上に頭を出しているのは昨日登った大千軒岳かと思われる。函館山からの展望を楽しんだ後、今日の宿泊予定地の道の駅「なとわえさん」目指して恵山国道(278号線)を西に向かった。



函館山



函館山から見る函館市街

・海岸線を走っているうち途中から天候が悪化し霧の中、約1時間かかって道の駅「なとわえさん」に着いたが、ここも雨こそ降っていないが深い霧の中。広い駐車場には車が殆どいなくて寂しいところだ。幸い道の向こうにローソンがあったので、今夜の買い物が出来た。

駐車場に場所を決めて夕食の準備を始めたのが5時前。食事を始めたら、隣に「和泉400ち4497」なるバンがやってきて止まった。年配のご夫婦だ。

「今夜ここにお泊りですか？」

「そう、ここに泊ります、よろしく」と奥様。

すると旦那が出てきて

「あいなめの煮付けはいらぬか？ 釣をして回っているのもう魚は飽きた。」と。

「喜んでいただきます！」。

一昨年は鮭の生の半身、昨年はホッケー匹に調理用の醤油と砂糖を付けていただき、今年は煮付けの料理済みのあいなめだ。おまけにヒジキの煮ものまでいただいた。思わぬご馳走にビールも進み豪華な夕食が出来た。今日からはビールは1缶にしよう、と決めていたのにあっさりと崩れ去った。



霧に寂しい道の駅「なとわえさん」



あいなめの煮付けにヒジキの煮ものまでいただいた

・ご夫婦と話が弾み、「釣もするが山も登っている、花が好きだ」というので、「今晚ゆっくりお読みなさい」と私の花の山旅の本を2冊貸してあげた。ご主人はS17年生まれだそうで、10月頃まで北海道を回るつもりだそうだ。北海道にはどこに行ってもこんなご夫婦がいるね。

・霧雨がシトシトと降り出した。広い駐車場に私たちの車2台が寄り添って泊っている。